

完了報告書（平成 23 年度）

提出者 森田 次朗

提出年月日 平成 24 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文 地域社会を媒介とする親密圏および公共圏の再編成に関する社会学的研究

英文 Reconstruction of the Intimate and Public Spheres through the Cases of Local Communities in Japan

【メンバー構成】

研究代表者 江南健志

幹事 森田次朗

メンバー 北島義和、有本尚央、阿部友香、朝田佳尚

【ねらいと目的】（600 字程度）

1990 年代以降、日本の農山漁村では「限界集落」という言葉が注目を集めている。生業や冠婚葬祭などの慣習の衰退はもちろん、廃校や医療施設の閉鎖など、地域社会の存続それ自体が困難となっているのだ。

だが、マス・メディアを中心にこうした「地域の危機」が騒がれる一方で、今日、日本の地域社会では、既存の「地域」という空間的・文化的枠組みをこえる新たな関係性が形成されつつある。たとえば林業の領域では、森林組合という従来型の地域組織が衰退しつつあるなか、地元の林業従事者と環境問題に関心をもつ地域外の人々などが協働しながら、森林管理に関する新たな取り組みを開始している。同様の動向は「伝統的」と呼ばれる祭礼の領域をはじめ、教育や福祉といった領域でも確認することができる。

本研究ユニットは、以上の問題意識をもとにプロジェクト開始初年度より各メンバーが自らのフィールドで聞きとり調査を行い、その結果を相互扶助的な親密圏および公共圏の生成ととらえ、いかに現代日本の地域社会で生きる人びとが共同的な圏域（コミュニティ）を能動的に再構築しているかを考察してきた。

本年度はこれまで蓄積してきた事例研究の成果を精密に検証するため、現代日本の事例研究（江南、有本、森田、朝田）だけでなく、過去の日本社会と現在の海外の事例に関しても調査（阿部、北島）をおこない、その結果を比較する。具体的には、戦前から前後にかけての奉公人による労働移動の際に形成された社会関係と、アイルランドにおける山岳レスキューが地域社会と取り結ぶ関係性について検討する。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等

調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等

その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

【調査】（2011 年度）

江南：三重県熊野市において祭の関係者に対する聞き取り調査を実施（2011年9-11月）。
森田：大阪府、京都市、兵庫県の民間教育施設について聞き取り調査を実施（2011年10月22日、2011年11月11日、19日、27日、12月9日）。
北島：アイルランドのスライゴーおよびリートリム県において、レクリエーションのために山登りを行う人々に対する現地農民の態度について聞き取り調査を実施（2011年9-11月）。
有本：大阪府岸和田市において、伝統的祭礼である岸和田だんじり祭に参加観察するとともにインタビュー調査を実施（2011年7月30日から8月27日）。
阿部：山形県庄内地方において、住込農業奉公人が生家、奉公先、奉公先のムラのそれぞれにおいて獲得していたメンバーシップや、奉公移動のプロセスを明らかにするために聞き取り調査を実施（2011年7-8月）。

【投稿論文および研究発表（業績）】

有本：投稿中（『ソシオロジ』）

阿部：国際研究発表（「第4回次世代グローバルワークショップ」）

北島：国際研究発表（“The XXIV European Society for Rural Sociology Congress”）、投稿中（『ソシオロジ』）

森田：研究会発表（“Interdisciplinary Approaches To Concepts On The Intimate And The Public”）

【研究会および打ち合せ】

2011年6月20日（月）：調査計画および予算執行に関する打ち合せ。

2012年2月10日（金）：成果報告会報告内容の検討およびワーキングペーパー作成に向けての打ち合わせ。

【成果の概要】（800字程度）

1990年代以降、日本の農山漁村では「限界集落」という言葉が注目を集めている。生業や冠婚葬祭などの慣習の衰退はもちろん、廃校や医療施設の閉鎖など、地域社会の存続が困難となっているのだ。だが、マス・メディアを中心にこうした「地域の危機」が騒がれる一方で、今日、日本の地域社会では、既存の「地域」（地方自治体、小中学校区など）という空間的・文化的枠組みをこえる新たな関係性が形成されつつある。たとえば、林業の領域では、森林組合という従来型の地域組織が衰退しつつあるなか、地元の林業従事者と「環境問題」に関心をもつ地域外の人々などが協働しながら、森林管理に関する新たな取り組みを開始している。同様の動向は「伝統的」と呼ばれる祭礼の領域をはじめ、教育や福祉の領域でも確認することができる。

本研究ユニットは、以上の問題意識をもとに、プロジェクト開始初年度より各メンバーが自らのフィールドで聞きとり調査を行い、その結果を相互扶助的な親密圏および公共圏の生成ととらえ、いかに現代日本の地域社会で生きる人びとが、「共同的な圏域」（コミュニティ）を能動的に再構築しているかを考察してきた。本年度はこれまで蓄積してきた事例研究の成果を精密に検証するため、現代日本の事例研究（江南、有本、森田、朝田）だけでなく、過去の日本社会と現在の海外の事例に関しても調査（阿部、北島）をおこない、その結果を比較した。メンバーごとの研究成果の概要は以下のとおりである。

①江南は、2011年9月から11月にかけて、三重県熊野市の一山村において行われてきた祭の関係者への聞き取り調査をおこなった。その結果、従来称揚されてきた地域住民による下からの実践が必ずしも公共性を担保しないことを明らかにした。

②北島は、2011年7月から8月にかけてアイルランドのスライゴーおよびリートリム県で、レクリエーションのために山登りを行う人々に対する現地農民の態度について聞き取り調査をおこなった。その結果、彼らの私的土地所有の在り方が登山者を許容する態度に結びつくことを発見し、「私的なもの」からも「公共性」が生まれることを明らかにした。

③有本は2011年8月から9月にかけて、大阪府岸和田市の伝統的祭礼である岸和田だんじり祭に参与観察ならびにインタビュー調査を行った。その結果、岸和田だんじり祭は周辺地域で行われている同種の祭礼と担い手を相互に融通しあう互酬的關係を結んでいることが明らかになった。この関係によって担い手不足の問題が解消されるとともに、それぞれの祭礼が一定の方向へと変化しつつあることが確認された。

④阿部は住込農業奉公人が生家、奉公先、奉公先のムラのそれぞれにおいて獲得していたメンバーシップや、奉公移動のプロセスを明らかにすることを目指した。山形県庄内地方での聞き取り調査(7・8月)の結果、特にリクルーター（雇い主側）の持つ親族ネットワークが奉公移動に重要であり、ジェンダー差があることが新たに分かった。また、以上の知見はGCOE次世代GW等で報告を行った（7・8月まで）。

⑤森田は、2011年10月から12月にかけて京都市、大阪市、兵庫県の民間教育施設について聞き取り調査をおこなった。その結果、生徒とスタッフが施設近隣の「地域社会」から協力を得ながら、いかに「民主的」な学校空間を創造しようとしているか、その際にかなる課題に直面しているかを分析した。

【通信欄】

(研究代表者記入)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input checked="" type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	400 (千円)	実績額 (円)